

鹿角が盛り上がる
ほどに、必要とされる
仕事

高橋●若い経営者の方とお話
しする機会がなかなかないので、
米村さんとお話しできるの
を楽しみにしてましたよ。

米村●とてもありません、こ
ちらこそ今日は勉強させてく
ださい。米村組は私で3代目
になります。特徴的な仕事は、
1978年に閉山した鹿角の鉾
山の残務工事でしょうか。今も
まだ続いているので、40年近く
担当していることになります。
世代を超えて手がける仕事はか
なり珍しいですね。高橋さんの
ところは、どんなものを作って
いらつしやるのですか？

高橋●主に半導体の基板です。
私たちは鹿角市の誘致企業とし
てやって来ましたが、15年前に
親会社から独立して現在に至っ
ています。当初は人の手に頼る
作業が多かったですが、機械の
進歩に伴って、人は機械を管理
する側にシフトしてきました。

日本も、鹿角も、 これからまだまだ 面白くなる

対談

株式会社米村組
代表取締役
米村茂

鹿角エヌ・シー・エル株式会社
代表取締役社長
高橋健一

07

鹿角で生きる者として
持ち続ける信念



まだまだ鹿角には
可能性が眠っている

高橋●最近、若い世代に何を残
せるのかと考えることが増えま
した。会社を大きくして、鹿角
で雇用を増やすのも一つの形だ
と思っています。社員のご両親
から、「お役に立てるように頑
張らせるので、よろしく願ひ
します」と言われた時はうれし
かったですよ。

米村●高橋さんは、農業も始め
たと聞きましたか…？



株式会社米村組

「信用第一」「堅実経営」を掲げる建設会社。
40年以上前に閉山した尾去沢鉾山の残務
工事を当初から現在に至るまで担当してお
り、この他にも公共事業の大型案件を多く
手がけている。



鹿角エヌ・シー・エル株式会社

鹿角市の誘致企業として、半導体基板の製
造業を営む。生産性向上を目指し、工場で
は機械化が進行中。近年では、新事業とし
て漢方薬の研究栽培を行うアグリ事業部を
立ち上げた。

米村●機械は24時間動いている
のですか？

高橋●ええ、土日も稼働してい
ます。今は同じものを大量に生
産するという時代ではないの
で、いろいろな種類のものをい
かに効率良く製造するかとい
うのがポイントです。工場をどう
改善していくかを考えるのは、
本当に面白いですよ。米村さん
は、会社を継いでどのくらいで
すか？

米村●5年ほどです。これから
力を入れていこうと思っ
ているのが、教育です。今はベテラン
の方々が会社を支えてくださっ
ていますが、いつかは世代交代
することになります。その後の
ことを考えて、もっと若手社員
のために時間を割かなくては、
と。

高橋●マネジメントは本当に難
しいですね、私もまだまだ勉強
中です。人は教科書通りに動く
ものではないですから…。なか
なか実現できませんが、一人一
人の興味に沿った仕事を任せ
たいものです。



高橋●ええ、アグリ事業部を立
ち上げて、農業にすっかりハ
マっています。これまでの事業
にとらわれず、新しいことを始
めるのも大切ですし、何より楽
しいです。

米村●アグレッシブですね、私
も見習わなくては…。

高橋●私は一度鹿角を出て、U
ターンしているんです。戻っ
て来た時は、あまりに都会と
ギャップがあつて「もうダメだ」
と思いました。でも、今は面白
くて仕方がないですよ。

米村●どういうところが魅力な
のですか？

高橋●鹿角は何でもできる場所
です。面白いことをしている企
業もたくさんありますし、起業
をしたい人にもおすすめです。
都会だと、「やるからには大き
なことを」という雰囲気があり
ませんか？ここにはそういう無
用なプレッシャーがないので、
小さいことから始められます
よ。

米村●ああ、そうですね。それ
に、鹿角の人は新しいことを始
める人を応援してくれますよ
ね。

高橋●そう、それは本当に励み
になりますよ。たとえ失敗し
たって、また始めれば良いん
です。ちよつと無謀なくらいでも、
若い人には夢を持っていればし
い。鹿角にはまだまだ可能性が
広がっていますよ。



対談にご登場いただいた全20社のドキュメンタリー映像を公開しています。